

自分たちには、今、何ができるのか

1 対象学年 小学校6年生（総合的な学習の時間）

2 ねらい

戦後 75 年以上経過した現在、実際に戦争を経験した人は少なくなってきており、子どもたちが家族や親類から戦争体験や当時の生活の様子を聞く機会は年々減少している。また、わたくしたち教職員自身も戦争を経験しておらず、子どもたちに戦争時の悲惨な様子を伝えることは難しい。

しかし、先人達が築いてきた現在の日本の平和を持続させ、より平和な世の中にしていくのは現代の子どもたちである。その子どもたちが、戦争の悲惨さを理解し、今ある平和をさらに持続させていくために「自分たちにできることは何か」を考え、行動する必要がある。

そこで、本実践では「平和な未来にするために、自分たちに何ができるのか」という課題解決にむけて考える。多面的に平和を捉えることができるように、戦争体験記「焼け跡に立つ虹」から一部抜粋した戦争体験者の話や当時の写真資料をもとに、食事や生活、人権などさまざまな視点から戦争当時と現在を比較する。過去と比べて今がいかに平和であるかを実感し、それらの平和を未来にむけて継続していくために自分にできることを考える機会としたい。

3 指導計画

時間配分	学習活動	教師支援
5分	1 「平和」について話し合う。 (1) 平和を感じる時を想起する。	
	発問①：みんなが平和を感じる時は、どのような時ですか？	
(3)		<ul style="list-style-type: none">○ 平和についての意見を出しやすくするために、社会科や道徳での学習内容を思い出すよう促す。○ 次の活動につなげるため、戦争に関する児童の発言が出た場合は、取り上げる。○ それぞれの平和を確認した後、本時のめあてを確認する。
		本時のめあて：平和な未来にするため、どのようなことが大切なのか考えよう。
(2)	(2) 戦時中の暮らしを確認し、本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none">○ 今感じている平和は当たり前のものではないことや戦争は二度とくり返してはいけないものであるという意識をもつことができるよう、戦争体験記「焼け跡に立つ虹」の抜粋文章や戦時中の写真を提示し、原水禁広島大会で聞いた戦争体験者の方の体験談を伝える。
20分	2 課題を解決するために資料を集め、根拠となる考えを整理する。	

発問②：戦時中と現在では、どのようなことが違いますか？
また、どのようなことが変わらないですか？

〈シンキングツール〉

から見た平和

(戦争中)

(現在)

- 戦争体験記「焼け跡に立つ虹」の抜粋した文章の一覧や参考になるサイトのURLを学習支援ツールで共有し、参考資料として知らせる。
- SDGsのロゴについてふれ、過去の「戦争」や現在の「平和」に関する視点を明確にすることで、平和な未来につながることを確認する。
- 課題解決の根拠となる平和に対する考えを整理するために、シンキングツールを用いて、戦争中と現在を比較するよう助言する。
- 資料を集める際、どのような視点で調べるとよいか、児童に想起させる。
- タブレット端末の操作が不慣れな児童も活動がスムーズに行えるよう、データだけではなく、紙のものも準備する。
- 常に友達の見意見をみることができるよう、学習支援ツール（ロイロノート）を活用する。

20分
(13)

- 3 本時の学習をふり返る。
- (1) 明確な根拠を基に、10年後の人物にメッセージを考える。

中心発問：平和な未来にするため、どのようなことが大切ですか？

(5)
(2)

- (2) 意見を共有する。
- (3) 今後への思いを広げる。

- 「未来の人に自分の考えを伝える」という視点から、その方法として手紙があることを想起させる。
- 10年後の人物（それぞれが選ぶ）に、平和な未来を築くためにどのようなことが大切なのか、アドバイスする形式で、それぞれの考えを、用意した文型に沿って、ワークシートにまとめさせる。
- 書き終えたワークシートの写真を撮り、学習支援ツール（ロイロノート）を用いて学級全体で共有させる。
- それぞれが考えたメッセージは、これからの自分たちにも当てはまることを伝え、よりよく生きるためにどのようなことが大切なのか、また、何を考えていかなければならないのかを確認する。

4 実践

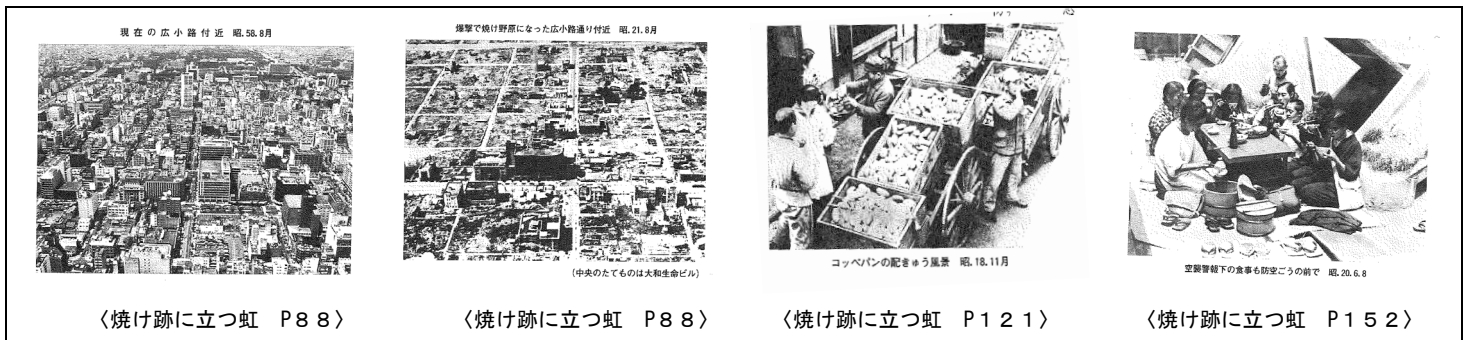
(1) 「平和」について

はじめに、「みんなが平和を感じる時は、どのような時ですか」と問いかけた。児童からは、「明るいニュースをテレビで見たとき」「オリンピックの開催」「戦争に関する話を聞いた後」などの意見があがった。現代が平和であるというイメージを多くの児童がもっていることが確認できた。また、児童の意見の中に「戦争」という言葉が出た時に多くの児童がうなずいていたことから、多くの児童の中で「平和」と「戦争」が密接に関わっていることが伺えた。

次に、本時のめあてを確認し、平和な未来にするため、どのようなことが大切なのか考える授業であることを確認した。その後、原水禁広島大会に参加した折に平和学習会で被爆体験者の方から伺った話の内容や、戦争体験記「焼け跡に立つ虹」に掲載されている文章の一部を抜粋し、まとめたプリントを配り、戦争のイメージを広げさせたり、本時のめあてをより明確にさせたりした。また、同時に「焼け跡に立つ虹」に掲載されている写真を数枚紹介した。児童からは、「おお・・・」「これ名古屋なの？」「こんな暮らしは絶対に嫌だ」といった声が聞こえ、戦争中の悲惨さを実感する様子や、戦争は二度とくり返してはいけないものだという意識の高まりを感じた。



【資料確認している様子】



【児童に提示した資料】

(2) 戦争中の「過去」と平和な「現在」を比較して

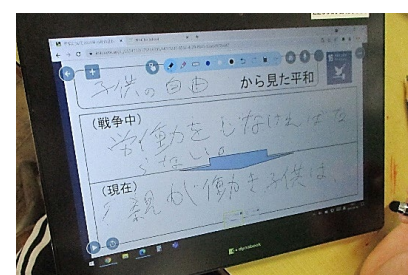
平和に関する認識を広げ、過去からの変容を基に、未来の平和をイメージしやすくするために、次の活動では、過去の戦争中の様子と現在の様子を比較した。比較する際には、シンキングツールを使用した。本実践におけるシンキングツールとは、①「〇〇から見た平和」といったような見出しを付けることで、比べる視点を明確にする②戦争中と現在の比較を図式化することで、児童の頭の中を整理するためのものである。タブレット端末の操作が苦手な児童も取り組めるように、シンキングツールは手書きができるプリントとタブレット用のデータの2種類を用意し、児童が活動しやすい方を選択できるようにした。

また、「未来の平和」という視点から、SDGsの第16項目のロゴをシンキングツールに載せ、その関連性を児童に伝えた。

① 自力解決の場面

シンキングツールで比較する際、根拠となる情報は、児童それぞれに調べさせた。参考資料として、「焼け跡に立つ虹」の一部をスキャンしたデータや、参考となるサイトのURLを児童に配付した。児童はそれぞれが選択した方法や視点で戦争中と現在を比較した。

児童が作成したシンキングツールは以下の通りである。



【戦争中と現在の平和を比較している様子】

私 から見た平和

(戦争中)
食べ物はたくさん食べれなく、着替えの用意などもなく衛生状態も悪くなり学校では軍国主義の教育を受けたりなど常に、戦争で頭がいっぱいになっている。

(現在)
ご飯も当たり前のように食べ、暮らせる場所も寝れる場所もあり、学校では勉強もし、戦争なんて考える事もない。

人権 から見た平和

(戦争中)
男性は戦場へ、女性や子供たちは重労働を強要された。

(現在)
男女平等
LGBTQ

食料 から見た平和

(戦争中)
栄養不足 質素 「食べたもの」 のごりくず ねずみ みかんの皮 水団 海水のおかゆ 日の丸弁当 昆虫 芋

(現在)
栄養が十分に取れている
戦争中に比べて贅沢

家族と一緒にいれること から見た平和

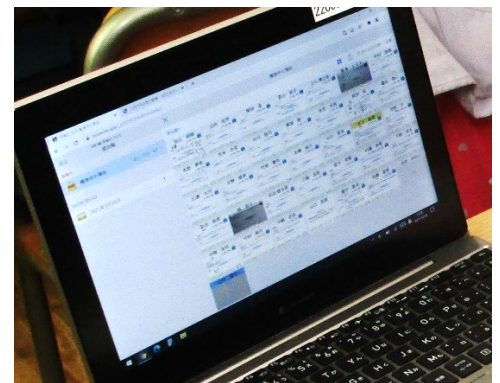
(戦争中)
家族と一緒に過ごせない人もいる。
家族と離れ離れになってしまいます。

(現在)
家族と一緒に過ごすことができる。
家族と離れ離れにならない。

上記のもの以外に、学校や遊び、暮らし、勉強についてなど、それぞれが選択した視点で戦争中と現在の様子について調べ、過去と比べて現在がいかに平和なのか感じ取ることができた。

② 友達との意見共有の場面

それぞれが作成したシンキングツールをタブレットの学習支援ツール（ロイロノート）を用いて共有させた。自分が調べた視点の平和だけではなく、さまざまな視点から現在の平和を捉えることができていた。児童からは、「なるほど。そういう視点から見た平和もあるのか」「戦争中って、大変だったんだね。今の平和って当たり前だと思っていた」などの発言があり、児童の現在の平和に関する認識を広げることができた。



【友達の見解を参考にしている様子】

(3) 「未来」の平和を手紙にまとめる

めあてに立ち返り、次の活動では、平和な未来にするために、どのようなことが大切なのかを考えた。自分の意見を誰かに「伝える」ことが大切だと話し、児童にその伝え方を考えさせた。すると、一人の児童から「先生、手紙に書くのはどうですか」と意見があがった。また、他の児童からも「それいいかも」と、共感する意見もあがった。そこで学級の意見として、児童が作成したシンキングツールをもとに、10年後の人物にあてた手紙を書くことで、自分の平和に対する考えをまとめた。その際に児童が考えを整理してまとめることができるよう、手紙の形式を①この授業で学んだこと②未来の人にしてほしいこと③平和な未来にするため、自分がしていこうと思うことという構成にした。

児童が作成した手紙は以下の通りである。

<p>未来の <u>自分</u> ^</p> <p>私は、平和についての授業で、<u>現在と戦争中の食事</u>についての平和の遠い、 について学びました。</p> <p>だから、未来の <u>自分</u> には、平和のために、 現在は「食品ロス」が多いので、 あまり「食品ロス」をしなくて 欲しい 欲しいです。</p> <p>そのために私も、戦争のときと比べて、今が どれだけ豊かなのかを理解し、 あまり「食品ロス」をしなくて 欲しいです。</p>	<p>未来の <u>社会をつくる人々</u> ^</p> <p>私は、平和についての授業で、<u>戦争中の日本人のくらしは、質素な食事だった。行きたくなくても戦争に行かされたりして、今のくらしと大きく違うこと</u> について学びました。</p> <p>だから、未来の <u>社会をつくる人々</u> には、平和のために、 二度と戦争を起さないように、戦争について知り、 たれでも平和に生きていけるように して欲しいです。</p> <p>そのために私も、平和について知ったことを忘れずに、 戦争の恐ろしさや、平和を実現することの大切さを 後世に伝えていきたいと思えます。</p>	<p>未来の ^</p> <p>私は、平和についての授業で、<u>戦争がとれたけ^{むじ}惨い</u> ことばっかりではいけないことなのか、そして私達が 今とどれだけ幸せで、<u>暮らしの^{むじ}差</u>について学びました。</p> <p>だから、未来の <u>人達</u> には、平和のために、 <u>人権をすべての人に、平等な世界を作</u> <u>って、みんなが楽しく生きる</u> ことにしたいです。</p> <p>そのために私も、SDGsやLGBTのことをも と知って、みんなに知ってもらおうことがした いです。</p>
<p>未来の ^</p> <p>私は、平和についての授業で、<u>戦争中は、ご飯もたくさん食べ</u> <u>れなかつたり学校では軍国主義の教育を受けたり、いつ死ぬ</u> <u>かも分からない世の中だったこと</u> について学びました。</p> <p>だから、未来の <u>私</u> には、平和のために、 <u>今何ができるのか考え実行し、1日1日を大切に</u> して欲しいです。</p> <p>そのために私も、当たり前が<u>幸せなこと</u>など 探して、それを続けるにはどうするか考えて いきたいと思えます。</p>	<p>未来の <u>自分</u> ^</p> <p>私は、平和についての授業で、<u>昔の子供たちに<u>労働</u>を</u> <u>させたり、かわい辛い思いをさせていた</u> <u>ひんげ戦争</u> について学びました。</p> <p>だから、未来の <u>自分</u> には、平和のために、 <u>意味のない争いをすぐに止める</u> ことを 見かたう止めるという行動をして欲しいです。</p> <p>そのために私も、もともと自分は<u>どのような</u> <u>行動をしたら相手と協力して</u> いろ いろな事にとりくめるのか 考えて生活したい とおもいます。</p>	<p>未来の <u>自分(私)</u> ^</p> <p>私は、平和についての授業で、<u>家族と一糸者に</u> <u>過ごせる幸せと、戦争で家族と会えない</u> <u>悲しみ</u> について学びました。</p> <p>だから、未来の <u>自分</u> には、平和のために、 <u>自分の大切な命と自分の大切な</u> <u>家族をとっても大事に</u> して欲しいです。</p> <p>そのために私も、今、<u>私の家族と過ごせる喜び</u> <u>家族と一緒に過ごすこと</u>ができた、戦争中の 子どもたちの悲しみを考えて過ごしてきたいです。</p>

児童の中には、自分が作成したシンキングツールではなく、友達の手紙を書いている児童も見られた。理由を尋ねてみると、「さっきの意見交流で、そっちの方がよいと思ったからです」と答えた。これは、自分が深めた平和の認識と友達の意見を比較することで、自身の考えを見直してより深められた。このように、平和な未来にするため、どのようなことが大切なのかを十分に考えている様子が見られた。

全員が手紙を書き終えた後、再度グループに分かれて手紙を読み合わせた。児童からは、友達の手紙の内容に対し、「確かに、その平和も必要だね」「それは私も大切だと感じたよ」といった声が聞こえ、それぞれの考えを認め合いながら、平和に関する意見を広げている様子が見られた。

5 実践の成果と課題

本実践では、主に三つの成果が見られた。一つ目の成果として、導入場面で、「焼け跡に立つ虹」の資料を見せたことにより、戦争のイメージを広げさせることができた。また、戦争中の悲惨さを実感する様子や、戦争は二度とくり返してはいけないものだという意識を高めることができた。児童にとって戦争とは、国語の教科書に載っている物語の世界や、社会の授業で歴史を学ぶ程度のものであり、実際にどのようなものだったのか詳しく知る機会は少なかった。その状況で、「焼け跡に立つ虹」のように、実際の写真や、戦争体験者の方の声は、児童にとって、とても新鮮で貴重なものだと考えられる。児童の反応からも、戦争をイメージするために「焼け跡に立つ虹」を活用したことは、効果的であったといえる。

二つ目の成果として、戦争中と現在の平和を比較する活動で、シンキングツールを用いることで、それぞれの視点を明確にし、児童が自分の考えを整理することができた。また、シンキングツールを共有し、友達と意見交流することで、自分の考えを広げることができた児童も見られた。

(2) 戦争中の「過去」と平和な「現在」を比較して

自力解決の場面で、シンキングツールを用いて、平和を比較する。



友達との意見共有の場面で、学習支援ツール（ロイロノート）を用いて、自分の意見と友達の意見を共有する。



(3) 「未来」の平和を手紙に

友達の意見を取り入れることで平和に対する考え方を広げ、手紙に表す。

The image shows a digital tool interface on the right and a handwritten letter on the left. The interface has a header '校庭 から見た平和' and a logo. It contains two sections: '(戦争中) 食料不足にならないように校庭を道にしていた。' and '(現在) 校庭は、全員でルールを守りながら楽しく遊んだり、授業で使ったりしている。'. Below this is a handwritten letter in Japanese, starting with '私は、平和についての授業で、昔の学校生活、校庭の様子のこと、食料が...'. The letter discusses the author's thoughts on peace and school life, mentioning that they learned about it in class and how they enjoyed the schoolyard in the past. It also mentions that they are grateful for the current peace and school life.

【ある児童の平和に対する考えの広がり】

三つ目の成果として、未来の平和に関する自分の意見を手紙にまとめる活動で、文型を用いることで、意図的に児童の考えを細分化し、それぞれの考えをまとめさせ、表現させることができた。また、過去と現在を比較した後に手紙を書いたことにより、「過去に起きた戦争を繰り返してはいけない」「今の平和は当たり前ではない」という気持ちが高まり、今ある平和を未来にむけて継続していくために自分にできることを考えることができた。

しかし、平和な未来にするために大切したい考え方が、具体的に表現できていない児童が見られるといった課題もあった。これは、活動内容が多かったり、問われているテーマがつかみにくかったりすることが原因だったと考えられる。発問を工夫し、児童が取り組みやすくなる工夫が必要であった。また、シンキングツールの作成が1枚で終え、その意見をそのまま手紙に表現する児童が見られた。児童の中には、友達の意見を聞いた上で自分の考えた視点を選択して手紙にまとめた児童もいたが、友達との意見交流が十分にできずに自分が考えた視点のみでまとめてしまった児童もいた。これは、シンキングツールの作成や意見共有の活動時間が短かったことが原因だと考えられる。活動内容を精選するなど、活動時間を十分に確保する工夫が必要であった。

今回、この実践をすすめるにあたり、「戦争」というテーマから、視点を児童一人ひとりに決めさせて、平和について考えさせた。そうすることで、学級全体として、さまざまな視点で平和について考えることができた。しかし、平和な未来のために何が大切かを考えさせることはできたが、その考えを生活にどう還元させていくかが、今後の課題であると感じた。「そのためには、どう行動していけばよいのか」と児童に繰り返し尋ねていき、今回学習し、表現した平和に対する考えを、自分の生活に近づけることのできる場を設定していきたい。